

高知県教育委員会 会議録

令和7年6月定例委員会

場所：教育委員室

(1) 開会及び閉会に関する事項

開会 令和7年6月4日(水) 9:00

閉会 令和7年6月4日(水) 11:08

(2) 教育委員会出席者及び欠席者の氏名

出席者	教育長	今城 純子
	教育委員	池 康晴
	教育委員	小田 通
	教育委員	森下 安子
	教育委員	弥勒 美彦
欠席者	教育委員	町田 美紀

(3) 高知県教育委員会会議規則第8条、第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長(総括)	小笠原直樹
〃	教育次長	濱川 智明
〃	教育次長	蛭子 穰
〃	教育政策課長	三木 直樹
〃	教職員・福利課長	岡本 健 (付議第4号から第6号のみ)
〃	学校安全対策課長	小川真紀雄 (付議第4号及び第5号のみ)
〃	幼保支援課長	津野 哲生 (付議第4号のみ)
〃	小中学校課長	高橋 励 (付議第4号及び第5号のみ)
〃	高等学校課長	麻植 隆久 (報告第1号から付議第5号のみ)
〃	高等学校振興課長	野田 健一 (付議第1号及び第2号及び第4号のみ)
〃	特別支援教育課長	板橋 潤子 (付議第3号及び第4号のみ)
〃	生涯学習課長	竹村 邦敬 (付議第4号から第7号のみ)
〃	保健体育課長	山崎 貴士 (付議第4号及び第5号のみ)
〃	人権教育・児童生徒課長	吉村 雅充 (報告第1号及び付議第4号のみ)
〃	教育政策課課長補佐	大前 拓也
〃	教育政策課教育企画担当チーフ	前原 尚太 (会議録作成)
〃	教育政策課主査	小松 名奈 (会議録作成)

(4) 議事の概要及び教育長等の報告の要旨

【冒頭】

教育長 6月定例委員会を開催する。

教育次長(総括) (提案説明)

教育長 付議第5号及び第6号は、高知県議会6月定例会に提出予定の議案について

て検討を行うものであるため、付議第7号は、個人の情報を含む議案のため、非公開の取扱いとしたいが、賛成の委員は挙手をお願いする。

各委員
教育長

全員挙手
それでは、付議第5号から第7号を非公開の取扱いとする。

※付議第5号及び第6号議案については非公開議案であったが、令和7年6月高知県議会定例会が開会され、議案が公開されたことから、当該議案の会議録は公表するものとする。

【報告第1号 非強制徴収債権の放棄について (人権教育・児童生徒課)】

○人権教育・児童生徒課長 説明

○質疑

	【質疑等なし】
--	---------

【付議第1号 令和8年度高知県立中学校の入学志願者取扱要項及び入学定員に関する議案 (高等学校課)】

○高等学校課長 説明

○質疑

池委員	県立中学校は何年に設立されたのか。
事務局	平成14年である。
池委員	その当時からいうと、児童数もかなり減少していると思う。もともとは文部科学省等が、市町村立の中学校へ進学するか、県立中学校へ進学するかを選択できる形を進めて設立されたと思うが、児童数が大幅に減少している中、保護者や小学生、あるいは県民から見て、県立中学校の存在意義について、国際中は最近設立されたので浸透していると思うが、安芸中学校や中村中学校は、スクール・ミッションやスクール・ポリシーのようなものがもっと明確にならないと、学校選びの候補になりにくいのではないかと思う。 それぞれの学校も、努力をされて発信もしているのだろうが、所管課では、これまでどのようなことをされてきたのかをお伺いする。
事務局	設立当初については、中学校・高校6年一貫した教育を通して、学力をつけて生徒の進路実現に向けて取り組んでいたところであったが、近年は生徒数の減少に伴って、県立中学校へ行く意義といったものが徐々に変わってきている。 進学のためにではなくて、これまでの環境を変えたいという生徒がいる場合もあるので、そういったところも含めて、県立中学校の在り方を考え

	<p>ていかないといけない時期に来ていると思っている。</p> <p>これまでの取組としては、高校と中学校の教員の教え合いもしながら、中高一貫の意義というものを考えてきたところであるが、なかなかそれだけでは、学校の魅力としては十分ではない。今後、高校の魅力化・特色化と、スクール・ミッション、スクール・ポリシーのことも含めて、各県立中学校の在り方についても検討していくべきだと思うので、本年度取組を進めていきたいと思っている。</p>
小田委員	<p>池委員の、県立中学校のスクール・ポリシーを明確にするようにということに加えて、県立中学校は独自の教育課程が組めると思うので、高等学校の魅力化と教育課程の独自性も発信していただきたい。また、既に計画があるのであれば、教えていただきたい。</p>
事務局	<p>県立中学校は、中高一貫なので、色々な教育課程を組むことができると思う。そのことについても、また改めて学校と協議しながら、他の市町村立学校と違いを出して魅力化に努めていきたい。</p>
教育長 各委員 教育長	<p>付議第１号の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。</p> <p>全員挙手</p> <p>付議第１号を原案のとおり議決する。</p>

【付議第２号 令和８年度県立高等学校の入学志願者取扱要項及び入学定員に関する議案

(高等学校課)】

○高等学校課長 説明

○質疑

池委員	<p>まず、「こうちフロンティア募集」について質問する。</p> <p>中山間地域には、県外からたくさん生徒が来ているが、他県の高校入試が１月で早くて、３月の実施だと定員を確保することが厳しくなるという話も聞いているが、県外生徒だけが受検できるのか、あるいは地元の中学生も受検できるのか。</p> <p>それと、定員等は７月以降に発表になるということだと思うが、県外から来てもらうためには、寄宿舎等がないとなかなか難しいので、上限まで取るというわけにはいかないのではないかなと思うが、市町村や高等学校とどれぐらい連携できているのか。</p> <p>それから、もし地元の中学生等も受検できるということになれば、高校入試は大きなイベントになるので、できるだけ早くお知らせしてあげないと、進路希望の状況がかなり変わってくると思う。７月末というような話</p>
-----	--

事務局	<p>もあったが、できるだけ早く夏休みに入る前に、学校や保護者の方、中学生等が相談できるような時期に、発表していただけたらありがたい。</p> <p>まず「こうちフロンティア募集」について、県外の生徒以外でも、県内の生徒でも希望があれば、受検することは可能ということにしている。</p> <p>それから、寮や生活する場所について、今回は先行実施としているため、なかなか寮の整備や住むところは、まだ、十分に市町村とも確認を取れていないが、現在、寮がある学校等においては、収容定員と空き状況等も踏まえて、各学校で、今回の「こうちフロンティア募集」の入学定員を決定していきたい。あまりにも取り過ぎると寮に入れないので、各学校からも募集割合等について検討させてほしいという話もあるので、今後県教委として募集要項を示して、お知らせすることになっている。周知についても、当然早くしなければならぬと思っているので、7月と言ったができるだけ早く行いたい。</p>
小田委員	<p>「こうちフロンティア募集」というネーミングが、何か新しいことが始まって、わくわくするようなイメージがあって良いと思う。この「こうちフロンティア募集」で、県外の方が来ていただけたらとてもありがたいし、できればそのまま高知に残ってくださったら本当に嬉しいことだと思う。</p> <p>そのためには、寄宿舍の話もあったが、受け入れた生徒を丁寧に受け入れていく、寄り添っていくということが大事だと思う。「こうちフロンティア募集」を行う学校については、環境整備だけではなくて、ソフト面での支援があることが条件になると思うが、どのように進めていくのか。また、その地域に勿論住んでもらうのだが、はじめて高知県へ来る子どももいるかもしれないので、高知県全体のことでも知ってほしいと思うが、特別なカリキュラムや、県全体で今後実施する企画等があれば聞かせていただきたい。</p>
事務局	<p>これまでも「地域みらい留学」等で県外からたくさんの生徒に来てもらっているところだが、色々な事情を持っている生徒もいると聞いている。そういった生徒に対する支援は、これまでも各学校で、生徒の状況を把握しながら支援委員会等を行っている。また、人権教育・児童生徒課が、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置も行っており、県外から来る生徒だけではなくて、そこで受け入れた全ての生徒に対して対応しているところである。そこを引き続き行いながら、要望等を聞いて支援の強化を行っていきたい。</p> <p>高知のことを知ってもらおうということだが、まずは来ていただくに当たって、高知県の良さを、県外での説明会等の中で、各学校からアピールをしていくことが必要だと思う。また、高知県に来ていただいた後に、高知の良さを知っていただく機会ということについても、現在、具体的な取組</p>

事務局	<p>は考えられていないが、県外から来た生徒を集めて活動ができる場やイベントができれば良いと思うので考えていきたい。</p> <p>県外からの生徒募集については、令和7年度は53名の県外生徒が入学してくれている。</p> <p>その中で、生徒の満足度を高める取組については、学校だけではなく、地域の方の協力がどうしても必要不可欠である。特に土曜日、日曜日については学校外となるので、地域の方にどう参画してもらえるのが重要である。そこで今年度、中山間地域の高等学校においては、地域コンソーシアムという形で、地域の方々と学校と一緒に話し合いを持ち、そこでどのように生徒の満足度を高めるか、協議をしている。地域の方の協力を得て、生徒の満足度を高める取組を進めていきたい。</p>
小田委員	<p>今、教えていただいたように、地域や県民を挙げての歓迎や、おもてなしの場が非常に大事になるので、地域コンソーシアムで良い実践があったら、高知の魅力を全国発信していただきたいと思うので、よろしくお願いします。</p>
森下委員	<p>「こうちフロンティア募集」を1月に実施することは大事なことだと思って聞かせていただいた。県外の生徒を獲得するというのは、他の県も同じような状況なので、時期的にも早くするというのは必須だと思う。</p> <p>全国的にも生徒の取り合いの状況なので、日程の前倒しだけではなく、いかにPRしていくかがとても大事だと思っている。先日、橋原高校に視察に行った時も、地域の課題を解決していくために、生徒と地域住民の人たちがディスカッションしていたり、支援する方々が一人一人を大事にして、その生徒がなにをしたいのかということ、きめ細かく聞き取って丁寧に対応されていた様子を拝見した。</p> <p>先ほど、好事例を共有するという話もあったが、そのような特色ある支援等をPRしていくことが、とても大事なことではないかと思う。ぜひこの募集要領とともに、今でも十分魅力化に取り組まれていると思うので、ぜひ丁寧に広報していただけたらと思う。</p> <p>もう1点、この「こうちフロンティア募集」は、プレゼンテーションが検査内容にあるが、どのようなプレゼンテーションをするのかという詳しい内容が、受検生はすごく気になると思う。受検生は中学生なので、どのような準備をしたらいいのか等をきめ細かく説明して、準備期間も含めて、生徒の力を十分発揮できるように対応いただければと思うので、よろしくお願いいたします。</p>
弥勒委員	<p>「こうちフロンティア募集」にとっても興味を持ったが、時期と方法を含めて、どのようにアピールするかというところが、とても大事だと思う。</p>

事務局	<p>まずターゲットとしている生徒像は、どういう人たちなのかお聞きしたい。いくつかのタイプに分かれるかと思っているが、例えば、さまざまな事情を抱えている人や、この中山間でなければ得られないような体験を求めている人や、高知に対する愛情を持っている人や、家族との繋がりがある人等、どのようなタイプの人たちをターゲットにしているのか。タイプに応じた個別のアプローチの仕方を考えても良いのではないかと思う。</p> <p>そのため、単に紙の媒体だけではなくSNSで広報をしたり、個別にターゲット層がいる中学校を周って説明するとか、色々な方法を組み合わせることが、はじめての試みを成功に導くのではないかと思っている。</p> <p>ターゲット層については、今回、試行という形で実施するので、各学校がスクール・ミッションやスクール・ポリシーに基づいて、どういった生徒を求めたいのかを明確に示す必要があると思っている。各学校によって、高知県の自然の中で学んでみたい生徒であったり、高知県の課題に対して取り組んでみたい生徒であったり、様々な考えを持つ生徒を求めているというふうには考えているので、そういったところを整備して、なるべく早く要項の中で示させていただき、全国へPRしていきたいと考えている。</p>
弥勒委員	<p>今日のこの議題のメインは、入学定員のことだと思う。入学定員のことを議論するうえで、来年度は学校別の定員をこういう形でしていきたいというテーブルが別紙2にあったと思うが、令和7年度の結果がどうだったのかということ踏まえて、令和8年度はこの決め方で妥当であるか、分かりやすく判断できるのが良いと思うが、そのような資料はないか。</p>
事務局	<p>資料は今お示しできていないが、口頭で説明する。中山間の学校については、すでに1クラス分空いているような状況になっている。そのため、10名絞って70名定員としている。岡豊高校は、今年度320名定員のところに382名の志願者があった。しかし、芸術コースに空きがあったため、芸術コースと体育コースも含めて合格者306名となっている。追手前高校は、280名定員のところで、合格者196名で、空きが84名となっている。小津高校の理数科は、40名定員のところに合格者27名で、13名空きがある。伊野商業は、160名定員のところに、合格者82名で、78名の空きがある。</p>
池委員	<p>弥勒委員がおっしゃったように、昨年分の実数があれば分かりやすかった。</p> <p>それから、説明があったように、今年度の入学定員の削減は、主に空き定員が大幅にある学校を中心にされたということだと思う。それは十分理解できるが、一部の地域に偏ることなく、今後は、定員削減について検討していかないといけないと思っている。空き定員がある学校は中山間地域</p>

事務局	<p>や周辺校に偏るので、そこだけを削減していくという考え方は、県全体のバランスからしてよくないと思う。</p> <p>今年度は空き定員中心で結構だが、せっかく県立高等学校振興再編計画で適正規模等も示されているので、これに従って各地域バランスよく、8年間で1,200名を削減していくという方向に、来年度、再来年度については、十分検討していただきたい。</p> <p>もう1点、1,200名削減としているが、それ以上に生徒数は減少していくので、もっと削減していかないといけない状況にあるが、削減ありきではなくて、やはり振興再編計画に「いきいき、かがやき、つながる学びへ」というサブテーマがあるように、魅力化も含めた取組を進めて、どんどん規模が小さくなっていくだけのイメージではない、県立高校の良さのようなものを、もっとアピールしていただきたい。高等学校振興課と協力して、特色化・活性化で、定員が逆に増えるぐらいの学校があっても良いのではないかとすることも考えながら、入学定員の削減について検討していただけたらありがたい。</p> <p>今年度については空き定員での考え方で良いので、特に反対の意見はないが、来年度以降、そういうことに注意をしていただきたい。それから、入学定員の見直しは地元の中学生にとって、重大なことなので、できるだけ早く概要をお示しするというのも、あわせて検討していただきたい。</p> <p>入学定員については、志願者と定員との乖離が大きいということで判断させていただいた。どうしてもまだ約66パーセントの充足率なので、このままということはなかなか難しい。さらに子どもも減っていくので、そこに合わせた変更が必要だと思っているが、振興再編計画にあるように、学校の特色化・魅力化をまず最優先に考えて、学校が存続することが大事だと思っている。各学校においては、その特色と魅力を出しながら、ここで示した数以上の生徒が集まってくるように取り組んでほしいと思っている。高知市内や南国市の学校についても、同様に特色化を目指してもらい、生徒がさらに高知県から全国に向けて色々と活躍できるような生徒を育てていきたいと思っているので、特定の地域だけに偏ることなく、全体を見ながら進めていきたいと思う。</p>
教育長 各委員 教育長	付議第2号の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。 全員挙手 付議第2号を原案のとおり議決する。

○特別支援教育課長 説明

○質疑

池委員	入学定員等が、それぞれの学校で示されていて、「何名程度」という書き方をされている。医者からの証明等もあって、その学校にどうしても行かなければいけない生徒を、受け入れなければならない学校がある。キャパシティもあると思うので、この「程度」という言葉で、志願者が増えても合格となるという例があるのか、あるいは逆に不合格になることがあるのか教えていただきたい。
事務局	「程度」で示しているところは、その目安人数よりも多くても学校で受け入れるようにしている。
池委員	不合格になるというようなことはないのか。
事務局	山田特別支援学校で、不合格になるということはない。
池委員	今年度、狭隘化が進んだという話もあったが、それは心配なく資格のある方は受け入れられると思ってよろしいか。
事務局	そうである。受け入れることになるので、その狭隘化ができるだけ加速しないようにということで、今回、第2志望から山田特別支援学校本校を削除することにした。
教育長 各委員 教育長	付議第3号の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。 全員挙手 付議第3号を原案のとおり議決する。

【付議第4号 令和6年度高知県教育委員会施策に関する点検・評価に関する議案

(教育政策課)】

○教育政策課長 説明

○質疑

池委員	<p>総括表を見ると、BやCがまだあるということだが、いつも同じ項目がBやCになることは避けなければいけない。どのような原因があって、目標を達成できていないのか、担当課を含めて検証して、次にどういう手を打つのか、PDCAを回していくことが一番大事なことだと思う。評価についてはやむを得ない部分もあるが、次回示すときは、これだけ向上できたとか、改善できたということをぜひ示していただきたい。</p> <p>逆に、Aのほうも達成できたということなのだろうが、この目標が妥当かどうかということをもう1回考えていただき、子どもたちを良い状況に</p>
-----	---

事務局	<p>導くためにはどうすればいいかということも、あわせて検討していただければありがたい。</p> <p>第4期基本計画は、昨年度が1年目であった。結果を、このように分析・整理をさせていただき、資料19ページから206ページは、担当課においてそれぞれどのように考えているかをお示ししている。その分析は、さらに深めていく必要があると考えているし、色々な知見をお借りしながら、しっかり我々としても前に進めていきたいと思っている。4年間の計画はまだこれから続くが、毎年、一步一步進めていきたいと考えている。</p> <p>A評価ということは、あくまでも設定したものに対して達成したという事実だけで、池委員にご指摘いただいたことはその通りであると思うので、常に前に進めていけるように、担当課と一緒に、事務局全体として取り組んでいきたいと思う。</p>
小田委員	<p>総括表について、C評価のところで、学校の授業外学習時間が、小中学生が大変であるということがあった。冒頭に説明していただいた学力のグラフとも関連があるのではないかなと思うところである。どうして子どもたちの授業外学習時間が少ないのかという要因を、先に池委員が言われたが、しっかりとつかんでいく必要があると思う。</p> <p>対話型AⅠの活用を進めるということは、教材という視点で整備することだと思うが、まだいくつか視点があって、例えば、学ぶ場所があるのか、そもそも学校で、どのような課題を出しているのかということもあると思う。対話型AⅠの活用を進めるとともに、そういうところを分析していただいたら、徐々に改善が図られていくのではないかなと思う。</p> <p>もう1点、小中学生に課題があるということだが、高校生はどのような状況なのか教えていただきたい。高校生は学力が上がってきているので、恐らく授業外学習も良くなっているのではないかなと思う。</p>
事務局	<p>小中学校における授業外学習時間の減少の要因についてであるが、平日を含めてゲーム等やスマホを含めた動画視聴の時間が3時間以上という子どもが、年々増加してきていることが1つの要因になっていると思う。</p> <p>また、先ほど委員もおっしゃっていただいたが、授業自体の質のことも、あわせて考えていかなければならないと考えている。昨年度から、授業と授業外学習のシームレス化というところで、デジタル教材やICTの活用も含めて、学び方や解き方のヒントを得る事業である対話型AⅠの活用実証研究事業も活用しながら、学習者を育成していくという視点で、授業者の指導と組み合わせ、効果的な授業と授業外学習に繋がるような取組も進めていきたいと考えている。</p> <p>学ぶ場所については、学校外のような学ぶ機会というものも考えていく必要があると思っている。例えば、放課後の学ぶ機会も含めて、課題の出し方もそうであるし、学習者自身が興味を持つような授業をつくっていくということが非常に大事になってくると思う。今年度は授業DXの取組等</p>

事務局	<p>もあるのでそれらにも取り組み、あわせて横展開を図っていければと考えている。</p> <p>高校においては、1人1台タブレットを使って、生徒が各自で学べるように「すらら」という学習教材を入れている。これの活用状況が徐々に向上しているようなところも見られているし、それに基づいて、学習テストも行っており、各学校が工夫をしながら、この活用を進めているところである。</p> <p>本課の学校支援担当の訪問によっても、授業の在り方や授業改善を進めながら、先生方が生徒に対してどのような学習をさせるべきか、授業と授業外のシームレス化をどう進めていくべきかという協議も行っているもので、そのあたりで向上も見られたといったところである。</p> <p>また、今年度から各学校で新しくプロジェクトチームを立ち上げたので、今後さらに取組を進めていきたい。</p>
事務局	<p>現状の実態だけ紹介させてほしい。まず、資料27ページの資料に高校段階における「授業外を含めほとんど学習をしない」と回答する生徒の割合をここから下げていこうということで、令和9年度には30パーセント以下にすることを目標にしている。</p> <p>こちらについてはA評価がついており、着実に減少が見られている。年度ごとに目標設定をしているものに対して、一步一步進んでいるという状況がご覧いただけると思う。それに向けた取組については、今、高等学校課長のほうから申し上げたとおりになっている。</p>
森下委員	<p>学校の授業時間外の勉強のことであるが、高知県は小学校に放課後児童クラブがあるということは、全国から比べて非常に誇れる取組だと思っている。しかし、改善がされないという、放課後児童クラブはまさしく学校外なのだが、それがあってもかわらず、1日当たり全く勉強しないと回答した子どもが6パーセントもいる。この要因は、きめ細かく分析していく必要があるのではないかなと思った。</p> <p>ゲーム等の魅力もあるけれど、高知県の場合は共稼ぎ率も高いし、なかなか親が支援しきれないところを、放課後児童クラブでしっかり支援していこうという施策を打ち出してやっていることは、高知県の課題解決のための支援策だと思うが、それでも全国平均より高いのはなぜなのかをもっと詳しく見ていく必要があるのではないかなと思った。マスのデータだけで見るとはなくて、今、高知県は少子化であるが、小学校の先生方が少ない子どもたちを一人一人の背景を掴んでいけるという強みがあると思うし、なぜ放課後児童クラブに来ていないのかということからでも、何か掴めるものがあるのではないかなと思う。小学校の頃の習慣が中学校に続いていくような対策も大事だと思うので、丁寧に分析すると良いのではないかなと思った。</p>

教育次長	<p>放課後学習教室などの活用状況も含めてという話だったと思うが、昨年度いくつかの市町村教育委員会を訪問して子どもたちの状況をお聞きした。その中で、小学生については、先生方の手厚い手立てによって、放課後学習教室などでも、ほとんど宿題をしている。全国の質問調査に回答するときに、実は「家でやっていないので、全くしないを選択した」というような声もあった。そういったところは、調査をするときに、できるだけ正確に状況を把握したいので、先生方に手立てをお願いしたいというような話はさせていただいた。宿題を全然していないのではなく、しているのだが、場所が家庭でない時に、つい質問の捉え方が異なっていた場合もあったようだ。ただ、家庭学習についても、授業とどう結びつけるかが大事なので、しっかりと取組を進めてもらいたいという話をしてきたところだ。</p> <p>中学校も、「部活が終わって、そのまま部室で学習した」という声もないわけではなかった。ただ、中学生はどうしても全くしない子どもたちも一定いるという話も聞いたので、そこに対しては、個別の対応も必要だろうということで、AIやデジタルドリルを使ったり、子どもたちができるところから、習慣づけを大事にしていこうという話をさせていただいた状況があった。</p>
森下委員	<p>放課後の学校の取組で、宿題などをしているので、この数字が少し不思議な感覚があった。せっかく取り組んでいることなので、正確な数字が出るように、吟味していただければと思う。</p> <p>中学校の場合は、一人一人の関心に合わせたアプローチが大事かと思う。子どもの背景もつかんでいただいて、一人一人に合った支援をこれからしていかなないと、改善はなかなか難しいのではないかと思うので、引き続き支援頂ければと思う。</p>
弥勒委員	<p>膨大な資料なので分からないところがあり、少し教えていただきたい。まず資料5ページの下に、棒グラフでD層の数字があると思うが、これはD層の割合なので、高いほうが良くないのだろうか。</p>
事務局	<p>そうである。要するに定着に課題がある層ということなので、これを引き下げたいということだ。</p>
弥勒委員	<p>低い方がいいのだろう。全国値との差なので、令和6年度の国語については、全国は下回っているということだが、少し悪化したということか。</p>
事務局	<p>そうである。</p>
弥勒委員	<p>中学校の場合は、全国よりも高いところにいるので、全国よりも悪い状況がずっと続いているということか。</p>

事務局	<p>そうである。中学校については、例えば国語は増えていて、数学は減ってはいるが、全国平均よりは依然として高い状況にあるということになる。</p>
弥勒委員	<p>全国との差なので、県自体のD層の割合の推移というのはまた別にあるということなのだろうか。</p>
事務局	<p>そうである。県としての数値を全国と比較して出したグラフになるので、県自体はどうであったかというのは別である。あくまでも比較値のグラフになっているので、絶対値としての推移状況というのはこの資料の中には出していない。</p>
弥勒委員	<p>算数が2.9ポイント増加したとか、国語は1.1ポイント増加したという右のコメントが、県の令和5年と6年の比較を言っているということなのか。</p>
事務局	<p>そうである。全国との差を比較したときのものである。</p>
事務局	<p>今、弥勒委員のご指摘は、県としては上がっているけれど、全国はもっと上がっているとなると、差が開いてしまうが、その状況はどうかということか。</p>
弥勒委員	<p>そうである。つまり、全国の推移がどうであろうが、県としては、着実に改善に向かっているのか、そうでないのかということも大事な観点だと思っている。</p>
事務局	<p>毎年問題が違っていたり、状況が違ったりするため、全国的な平均から見てもどうかという比較が、どうしてもよく行われている。</p>
弥勒委員	<p>承知した。授業外学習時間の減少について、主な原因はゲームとSNSということだった。つまり、時間の使い方が完全に他のものに負けているということなのかと思うが、そもそも何のために勉強するのか、根本的なことを考えてもらうような場を設けることが必要なのではないかと思う。</p> <p>同じように保護者にもそういう考え方を持ってもらうことが必要だと思う。生徒に考えてもらううえで、例えばグループごとに分けて、生徒だけでディスカッションをするワークショップのようなものとか、そもそも「なぜゲームをしてはいけないのか」や、「面白くないのに、なぜ勉強なんかしなくてはいけないのか」というところから、単に一方的に教えるだけではなくて、分かりやすく、面白く身近な存在として教えてくれるような人の話を聞かせてもらうとか、本人たちに気づいてもらうような場が必要なのではないかと思う。</p> <p>あと、アンケートの中で「勉強を頑張っている」という項目があったと思うが、令和5年度に比べて、「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っ</p>

	<p>ている」と書かれているのが、2ポイントほど上がっている。先ほどの、「授業外学習時間の減少」と、「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」ということが、矛盾する結果になっているような気がするので、設問の仕方を工夫する必要があるのではないかと考えている。</p> <p>つまり、自宅で行うだけではない勉強もあるという話だったと思うし、8割、9割の人がこう思っていると回答するということであれば、さらに掘り下げて、ゲームやSNSの時間の使い方などもすでに把握しているのであればもう十分かもしれないが、本当に勉強する必要があるかを理解しているかどうかとか、設問の仕方も工夫する必要があるのではないかと考えた。</p> <p>あと、資料9ページに暴力行為のデータが出ていたと思うが、この暴力行為の県の数字が令和4年度、5年度で大きく減少していて、向上しているわけだが、何か理由があるのか。</p>
事務局	<p>暴力行為の発生については、一部の学校で多発する傾向がある。そのため、市町村教育委員会などとも一緒に、前年度に暴力行為の発生が多かった学校に対して、児童生徒への関わりや支援方法について、助言・支援を繰り返し行っていき、指導主事等の派遣にもよって、それを継続していくということで対応してきた。今後とも、その方向で進めていくようにする。</p>
弥勒委員	<p>承知した。</p>
事務局	<p>学ぶ意味をどう捉えるかというのが、根本的な重要なポイントだと思っている。その大きなポイントとなっているのが、キャリア教育的な部分だと思っており、自分たちの将来を意識した教育というのは、今回、基本計画の年次改訂の中でも大きく取り上げたところである。要するに、なぜ勉強しなければいけないのかというようなところを、児童生徒たち自身が気付ける機会の設定が非常に重要な取組になるので、配慮したいと思う。</p> <p>指標を設けるときは、おっしゃるとおり、なるべく正確に状況を把握するためには、回答の仕方というのは非常に重要な取組だと思う。さきほど教育次長から話があったように、なるべく正確な回答のニュアンスを取れるように工夫していきたい。また、継続的に数字をとっていくことも重要かと思っているので、バランスも考えながら工夫していきたいと考えている。</p>
弥勒委員	<p>承知した。</p>
池委員	<p>弥勒委員から、「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」点と、授業外学習が少ないという点とが矛盾しているイメージがあるというご発言があったが、これは対象が高校3年生で、もう社会に出る寸前なので、もっと高くないといけない。</p> <p>これが小学校や中学校の中で、将来のためになぜ勉強するのかということについては、事務局が言われたキャリア教育等が必要になってくる。こ</p>

<p>弥勒委員</p> <p>教育長 各委員 教育長</p>	<p>れが小学校、中学校、高校 1 年生、2 年生になっても、「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」という意識が薄いとなると、その授業外学習が足りてない要因の 1 つになっているのではないかと思う。これは 3 年生に聞いても仕方がないのではないか。</p> <p>設問の仕方もあるが、設問の時期や対象も工夫しても良いかもしれない。</p> <p>付議第 4 号の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。 全員挙手 付議第 4 号を原案のとおり議決する。</p>
--	--

【付議第 5 号 令和 7 年度高知県一般会計補正予算に係る意見聴取に関する議案

(教育政策課)】

○教育政策課長 説明

○質疑

【非公開】

森下委員	小中学校課の日本語指導を含めたきめ細かな指導への支援の補助金のことだが、今、どれくらいの方が必要としているのか数を教えていただきたい。
事務局	令和 7 年度現在において、日本語の指導が必要ということで、教育課程を組んで日本語の指導を受けている児童生徒数は、小学校においては 23 名、中学校においては 3 名で、計 26 名ということになっている。
森下委員	昨年度から増えているのか。
事務局	倍近くに増えている。
教育長 各委員 教育長	付議第 5 号の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。 全員挙手 付議第 5 号を原案のとおり議決する。

【付議第 6 号 職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例等の一部を改正する条例議案に係る意見聴取に関する議案

(教職員・福利課)】

○教職員・福利課長 説明

○質疑

【非公開】

<p>教育長 各委員 教育長</p>	<p>【質疑等なし】</p> <p>付議第 6 号の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。</p> <p>全員挙手</p> <p>付議第 6 号を原案のとおり議決する。</p>
----------------------------	--

【付議第 7 号 高知県立図書館協議会委員任命議案

(生涯学習課)】

○生涯学習課長 説明

○質疑

【非公開】

<p>教育長 各委員 教育長</p>	<p>【非公開議案】</p> <p>付議第 7 号の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。</p> <p>全員挙手</p> <p>付議第 7 号を原案のとおり議決する。</p>
----------------------------	--

(5) 議決事項

付議第 1 号から第 7 号

原案どおり議決